



民主 苦小牧号外
2026年
8.2
No.1151

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!



自衛官の命を軽んじるべきではない

みなさんは、防衛装備庁の『安全保障技術研究推進制度』をご存知ですか？ 私は「しんぶん赤旗」の記事で知りました。大学や企業が防衛力の強化を目的に軍事技術に応用できる研究をし、その成果に応じて国が補助金を出す制度で、最大20億円も受けられます。国が大学予算を減らしたことで、大学経営が厳しくなっている今、大学にとっては魅力的な制度といえます。

どんな研究が採択されているのかを調べると、海中ロボットの研究、生命拡張システムの研究、先進燃料核融合反応の実証などの研究が選ばれています。北海道では、北海道大学の「3次元量子トンネル集積回路チップ技術に関する研究」です。まるで“未知の世界”です。

大学に軍事研究をさせて補助金を出すということ自体、私は問題だと思っていますが、さらに許せないのは、今年から「医療・医工学」の分野を加えたことです。戦傷医療に関する研究を大学に担わせる目的です。

その背景には、ロシアによるウクライナ侵略で、手足を失ったウクライナ兵が急増し、社会問題となったからだそうです。ロイター通信は、四肢を切断する手術を受けた兵士は数万人に上ったと報じています。

また、ウクライナ侵略では、心的外傷後ストレス障害（PTSD）も大きな問題になっており、防衛省の資料には「ウクライナ戦争では兵士のPTSD有病率は67.4%と報告され、退役後の薬物乱用や自殺、家庭崩壊、暴力など長期的な公衆衛生上の危機に直面するリスクがあり、政策的・医療的対応が求められる」とあります。

思い返すと、イラク戦争に派遣された自衛官の自殺者は29名でした。またテロ対策としてインド洋に派遣された自衛官の自殺者は25名です。自衛官は、どんなに危険であっても命を賭けて任務にあたらなければなりません。強い恐怖と大きなストレスを抱える業務です。

今、高市政権がやろうとしていることは、自衛官の命の危険が増すことを前提にした準備です。PTSDが発症するリスクが高いことを想定しての対策です。自衛官の命を軽んじているのではないのでしょうか。そんな準備ではなく、どうしたら戦争が起きないようにできるのかを真剣に考えるべきです。私は、高市首相に恐ろしさを感じます。そんな首相でいいのでしょうか。